

Network meta-analysis
パネルディスカッション

NMAの実施に統計担当はどの段階から関与すべき？

システマティックレビューから関与すべき？

- (藤井) 実際の経験では、システマティックレビューは不参加だった。各試験の選択・除外基準の設定には関与すべきではないか。感度分析をどこまですべきかなどには、当然検討すべきであり関与すべき。
- (兼清) 実務との兼ね合いから考えると、系統レビュー(各試験の抽出, Risk of biasの評価等)に関わるのは難しい。レビュー後から、関わりたい。
- (野間) 系統レビューに関しては、コクランを例にすると、専門家に任せたほうが良い部分が多い(データベースからの各試験抽出のアルゴリズム等も専門性が高い)。専門家に実施してもらうことで、質を担保できるという面もある。

システマティックレビューを行うのは誰？

- (藤井) 内部で実施するのは難しいが、仕組みがないと統計解析に振られることとなる。外部に委託することも選択肢になる。ただし、申請資料に用いるならば、どこまでの質を求めるか、さまざまな問題があることを認識すること

もうすぐIPDの時代がやってくる？とはいえ限られた人しかできない。NMA→IPDへ？

- (長島) IPD利用は依然として限られてくる。業界全体での枠組みがあれば、できないことはないが。
- (野間) IPDは標準化がポイント。また、Summary dataの解析手法に合わせていくことが可能(その上で統合)。欠側の処理について、共変量について。
- (藤井): 社内データと論文データ融合がポイント。テクニカルな面で不可能ではないけれども、evidenceとしてどこまで用いることができるかは、議論の余地がある。また、自社で実施した臨床試験データから要約統計量を算出して、それをNMAに用いるのではなく、IPDのまま他試験の併合データとNMAで統合するようなことが、今後、期待される。

NMAの理論的側面

検証試験を集めたMA

- (藤井) 群間差が大きい仮定に基づく試験は、例数少ない、小さい仮定の試験は例数が多い。この差がNMA又はMAに影響する？
- (野間) 個々の試験の推定精度が、最終的な結果に最も影響する。例えば、一試験のみ大規模試験の場合に、その結果が全体の結果の大部分に寄与してしまう。そのときに、NMA又はMAに影響すると思われる
- (兼清) 試験数の多い比較の重みを変更したりするのがよいのか？
- (野間) それもありである。ただし、その影響を考慮すべき。
- (藤井) 例数の少ない試験を除くという選択肢もある。